



帝京大学小学校だより

遊びを通して実社会を疑似体験、起業家教育の第一歩

帝京大学小学校 校長 石井 卓之

5月号でお知らせした「大学生に行っているキャリア教育プログラムの小学生版の開発」の授業を6月4日(土)の1校時から3校時に実施しました。授業を始めるにあたっては6年生の先生方と若手実業家たちが、Zoom等で使用する授業案やワークシートの検討を繰り返し行いました。

迎えた当日、Zeronity(株)の代表取締役や関係者、大学生を含め総勢26名の方々が子どもたちの授業をサポートしてくれました。遠くはこの日のために北海道から来てくださった方もいました。新たな教育に対する若手の熱意を感じながら、本当にありがたく思いました。



まずは、2.5階でオープニングの講話。起業や経営、お金に関することを学びました。「お金儲けは社会の経済を回す大切なこと。利益を使い、社会貢献活動が行われている。」など、多様な内容がありました。

次に、各教室で実際にモノポリーというゲームを使って学習をしました。ビジョン設計、戦略構想、各プレイヤーとの交渉・決断、投資判断などの経営に必要な要素が全て含まれています。私も昔行ったことがありました。



最初の資産(現金)は1,500万円です。誰かが破産するか、タイムオーバーになったらゲームが終了します。時間内でどれだけ資産を増やせるか、白熱したゲームが展開されました。サポーターが各グループに2人つき、ゲームの進行を助けてくれました。難しいと感じた人もいたようですが、楽しみながら学ぶことができました。

授業後の子どもたちの感想(抜粋して要約)

- ・割算が頭の中ですることができるになりたいです。算数の大切さを学びました。
- ・交渉などで相手の心情、状況、要求などを考えてやるために、国語が大事だと思いました。
- ・最も大切なのは、みんなが笑顔になれる「Win-Win」の社会をつくることだと思いました。
- ・今日みたいに遊びを通して学びを得る活動を、これからもやってほしい。
- ・サポーターの人が優しく接して下さった。人見知りだけど、スムーズに会話ができてよかった。
- ・全ての教科をしっかりとやっていきたいと思った。
- ・祖父母は起業して40年会社を続けていることがすごいと感じた。

最後に、
世界を、日本を、そしてこの帝京大学小学校6年を
よくするのは、みなさん次第です。

卒業まであと1年ありません。
このクラスで何を学び、
どうよくするのか考えて動きましょう！

授業の最後には、左のような励ましの言葉でクロージングしていただきました。

教師の授業も大切ですが、多様な職種や年齢層の大人が、未来を託す子どもたちの教育に前向きに取り組んでくれている真剣さ、情熱を感じることができた1日でした。

この実践をさらにブラッシュアップし、次回に繋げていきます。